

JR連合「第32回中央委員会」開催！ 20春闘勝利とJR連合への総結集に向けて！

JR連合は2月5日、高松市内において、中央委員や特別中央委員など総勢200名が参集する中、「第32回中央委員会」を開催した。冒頭、JR連合荻山市朗会長は挨拶で、「JR産業が社会の変化に対応して労使の持続的な発展を築いていくためには、JR連合の組織と運動を磨いて足元を固め、組合員、会社、社会から信頼される運動を実践するとともに、JRグループ、JR産業に働くすべての仲間の総結集をめざしていく」との決意を語った。

同委員会は、安全の確立、2020春季生活闘争勝利、「JR連合ビジョン」の実践を通じた組織強化・拡大、政策課題解決などを柱とした当面の活動方針を、真摯な討議を経て満場一致で決定した。



池田庄一中央委員が、イーストユニオンを代表して発言！

昨年10月に発生した台風では、自然災害の恐ろしさをまざまざと見せつけられた。長野車両基地の被害では、運転本数についても3月のダイヤ改正以降、被害前に戻しているが、オリンピック・パラリンピックを控え臨時列車の確保が問題になってくる。

私たちはJR連合が掲げる「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を目指し、「あるべき労働組合像・労使関係像」を構築するため各職場で実践し、提言している。問題を労使で共有化し、一体となって取り組んでいかなければならない。労働法的位置づけもない『社員会』が、どこまで機能し得るか。「組合不要論」や「労使は対立するもの」といった認識を捨てさせなければならない。

会社は『変革2027』を発表してから矢継ぎ早にそれに伴う施策を提案している。今後の多くの課題を考えれば、限られた要員の中で有効な施策のひとつと考えるが、各職場にあっては説明する管理側がどれほどの理解を持っているか。若手を中心に動揺が広がっているのが実態である。離職率も上がってきている。会社に魅力が無くなっていると考えたら忸怩たる思いだ。

私たちは昨年、更新した『変革2019イーストイノベーション』を労組変革として位置付け、民主的な組織創り、安全で安心して働ける職場創り、そして組合員を守る運動から組合員と家族の幸せを創造することを、これからもJR東日本の中で築き上げていく。

最後に、今中央委員会で決定される『JR連合2020春季生活闘争方針』を私たち自身のものとし、現実を見据え、具体的な要求を提出し交渉していく。それとともに、この春闘を通して労働組合の存在意義を、特に若手の組合未加入者に訴え、組織拡大に繋がる春闘として取り組んでいく。私たちが必要としている組合未加入者が多数いると信じている。8万6千の仲間の皆さんの後押しを受けて、10万の声とするため、組合員全員が奮闘することをお誓い申し上げる。

